

医研第349号

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Ultrasound Biomicroscopic Configurations of the Anterior Ocular Segment in a
Population-Based Study: the Kumejima Study

疫学調査における超音波生体顕微鏡による前眼部形状計測

氏名 目取 凪 市子



論文要旨

原発閉塞隅角緑内障 (PACG) は多くのアジア諸国における主な緑内障病型であり、世界的にも失明原因の一つである。PACG 発症要因として、浅前房、短眼軸などの眼球および前眼部の解剖学的形状があげられる。それ故に、前眼部形状を適切に把握することが PACG のメカニズムや予防につながる。




従来、前房隅角の評価法としては細隙灯や隅角鏡を用いた方法が一般に用いられてきたが、検者の主観に頼った評価法であり、客観性および定量性に問題がある。超音波生体顕微鏡 (UBM) は前眼部の客観的、定量的評価を可能にし、閉塞隅角の診断に寄与してきた。

これまでに閉塞隅角眼に対する UBM 測定結果の報告はあるが、疫学調査に基づく報告は未だない。我々は人口に基づき無作為抽出した集団に対して、UBM を施行し、その測定結果分布および関連因子などを調べたので報告す

つ	た	。																	
さ	ら	に	多	変	量	解	析	で	は	遠	視	、	短	眼	軸	、	中	心	
前	房	深	度	が	浅	い	ほ	ど	周	辺	前	房	深	度	が	浅	く	、	毛
様	体	が	前	方	に	位	置	し	、	虹	彩	が	厚	い	傾	向	に	あ	っ
た	。	ま	た	、	眼	圧	が	高	い	ほ	ど	周	辺	前	房	深	度	が	浅
か	っ	た	。																
久	米	島	町	で	の	結	果	を	、	日	本	や	世	界	の	他	地	域	
へ	一	般	化	す	る	こ	と	は	難	し	い	が	、	今	回	の	UBM	測	
定	結	果	が	前	眼	部	形	状	を	考	え	る	上	で	疫	学	調	査	の
み	な	ら	ず	臨	床	調	査	で	も	役	立	つ	も	の	に	な	る	と	思
わ	れ	る	。																

(別紙様式第 7 号)

論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 349 号 論文博	氏名	目取真 市子
		審査日	平成 22 年 2 月 18 日
論文審査委員		主査教授	石田 肇 
		副査教授	鈴木 幹男 
		副査教授	上里 博 
(論文題目)			
<p>Ultrasound Biomicroscopic Configurations of the Anterior Ocular Segment in a Population-Based Study: the Kumejima Study</p>			
(論文審査結果の要旨)			
<p>上記の論文に関して、研究に至る背景と目的、研究内容、研究成果の意義と学術水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。</p>			
1. 研究の背景と目的			
<p>前房隅角は角膜周辺部と虹彩根部が接触する部位で、隅角の形状解析は緑内障の診断および治療に非常に重要である。超音波生体顕微鏡 (UBM) は前眼部の画像評価法の一つであるが、隅角形状を客観的・定量的に評価することができる。UBM によって計測された隅角形状のパラメータに関して、疫学調査に基づく報告は未だにない。今回、眼科疫学調査久米島スタディ検診対象者を無作為に抽出後、UBM を施行し、そのパラメータの分布および、性別、年齢、身体的生体計測結果との相関の報告を目的としている。</p>			
2. 研究内容			
<p>久米島町スタディ検診対象者 4,632 人から 10%にあたる 461 人を無作為抽出し、</p>			

UBM 対象者とした。受診者は 388 人、受診率は 84.2%で、解析除外症例を除き、解析対象者は 301 人 (61.6%) であった。

今回の研究より、隅角は耳側、鼻側、下方、上方の順に広く、毛様体は鼻側、耳側、下方、上方の順に後方に位置していることが分かった。虹彩の厚みは 4 象限間で差を認めなかった。また、高齢者・女性ほど隅角は狭く、毛様体は前方に位置していた。身体的特徴との相関では、遠視、短眼軸、中心前房深度が浅い程、隅角は狭く毛様体は前方に位置しており、眼圧上昇と狭隅角は有意に相関していた。

3. 研究結果の意義と学術水準

本研究は、大規模な疫学調査に基づく、UBM による前眼部形状の解析結果を検討した初めての報告である。前眼部形状は地域差、人種差があることが予想されるので、今回の研究結果を一般化することはできないが、これらのデータが今後の前眼部形状の研究および緑内障の診断・治療方針を考える上で有意義な研究結果になったと思われる。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。